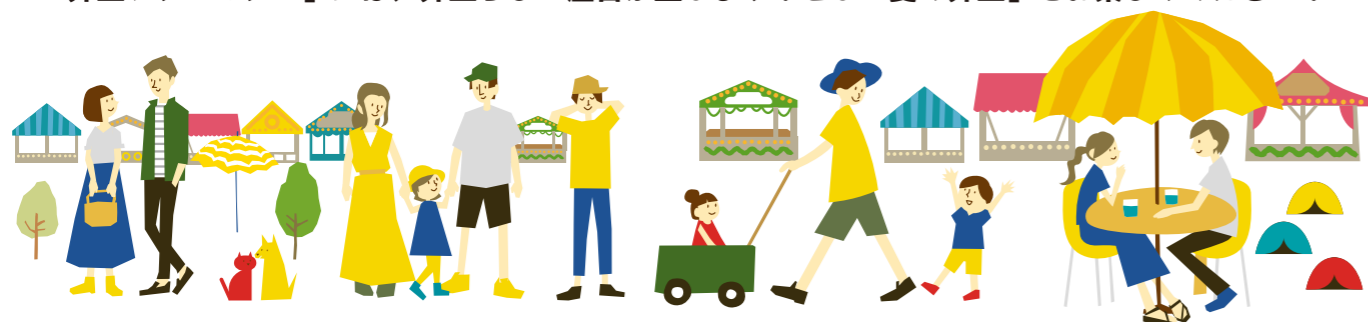


2023年
8月11日
(祝・金)
10～13時

第2回井土プチマルシェ 開催決定!!!

「井土プチマルシェ」には、井土らしい屋台が並びます！ぜひ「夏の井土」をお楽しみください！



この他にもさまざまな屋台が並びます。詳細は下記 SNS でご確認ください！



むかっち博士の 押し花 ワークショップ

井土地区内を散策しながら、
押し花にするための草花を集めます。
【日時】2023年8月4日(金) 10-12時
※雨天時は8月7日(月) 10時～に順延します。
【会場】井土集会所(仙台市若林区井土字宅地 19-2)
【参加費】一組 500円
【参加対象】おおむね5歳以上
【申込方法】先着 10組となります。
右記 QR コードからお申し込みください。



*押し花を使ったバジづくりは、上記「井土プチマルシェ」内で行います！

井土
かたらい
スペース

井土公会堂で
開催中！

お茶飲み、おしゃべり、情報交換の場として
開催中！やりたいこと、知りたいことなどあ
れば、ぜひ持ってきてくださいね！

【会場】井土公会堂
【日程】第1・第3月曜日
(月曜 祝日の場合は翌火曜日またはお休み)
【開放時間】10時～15時

井土クリーン作戦 開催中！

8月11日(祝・金曜)
9月11日(月曜)
両日ともに9時～
@井土集会所
ご参加をお待ちしています！

さまざまな形で情報を発信しています。
ぜひご覧ください！



9840842

井土
まちづくり
レポート
第12号

6月3日開催
第2回
井土のこれから
大会議

井土の課題あれこれ、 自分たちでできることは？



6月3日(土)、第2回「井土のこれから大会議」を東六郷コミュニティセンターで開催しました。第1回の大会議(4月15日開催)にて出された、「課題でもあるけれど、解決の道もあるのでは」という話題について、テーブルごとに分かれてディスカッションを行いました。前回出たアイデアを膨らませながら、「実現できそうなこと」、さらに「自分たちで取り組みそうなこと」について、洗い出していました。今回の議論を踏まえて、井土町内会と井土まちづくり推進委員会で「まちづくり計画」の素案を作成する予定です。8月に開催する予定の「井土プチマルシェ」にてお披露目したいと考えています。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました！

※記録係として一般社団法人 ReRoots の皆さん、そして仙台高等専門学校総合工学科建築デザインコースの菊池義浩先生とゼミ生が参加してくださり、大変助かりました。ありがとうございました！

●発行・編集：井土町内会、井土まちづくり推進委員会 (ido9840842@gmail.com) ●2023年7月発行

テーマ1 ひとりで出来ないことはみんなで！
宅地の管理、協力してやってみよう！

昨年5月から「井土クリーン作戦」が始まり、地区内のゴミは減少傾向にあります。一方で、井土のメインストリート沿いの宅地跡地については草が伸び放題となっており、景観形成を阻害しています。しかしながら、多くの所有者が井土地区を離れている現状を踏まえ、「個人で管理する」ことの限界もみえてきました。

- 現状の課題は？
- どんな解決策が
ありそう？
- 自分たちで
できる
ことは？

空き家の草が伸び放題で大変
一人で草を刈っては間に合わない
土の中からまだまだ瓦礫が出てくる

行政は井土以上に
関わってくれない。
関わってくれるように、
アクションを続けていく
必要がある。

集まるきっかけが
欲しいという人も多い。
何かやらないと。

花植えとか、
空いている土地に
できたらいいな。

空いている土地を
ちゃんと使えば、
草もゴミも
ちゃんと管理できるよう
なると思う。

新浜では、
地区内の畑をよその人が借りて、
農作業を通じた
地元のひととの交流が
生まれている。

自分たちが
土地に魅力をもたないと、
企業も行政も
関心をもたない。
まずは見た目を
整えていきたい。

閑上や藤塚に
人をとられないように、
井土にも人が
ちょっと寄ってくれたら
いいなあと思う。

野菜づくりが得意な人が
たくさんいるから、
そういうことが
活かせたらいい。

何か1つでも行政と一緒に
事業してくれたら。
井土浜で一つの事業でも
やってくれたら、
私たちが発信する以上の
市民への発信になると思う。

**「軽トラ市」
を行う**
**個人の宅地を
貸し借りできるように
働きかける**
**空いている土地に
花壇をつくる**

野菜づくりを得意とする井土地区の特性を活かし、井土の宅地跡地で育てた野菜を販売する「軽トラ市」のアイデアが出ました。野菜づくりなら今すぐにも出来るそうです！

千葉県柏市で行われている、個人宅地を貸し借りする制度「カシニワ」を井土地区で展開することで、興味のある人に宅地跡地を活用してもらおうというアイデアです。

クリーン作戦でも行われている花壇づくりを個人の宅地にも広げていこうというアイデアです。これも今すぐできそうです！「花のまちを目指したい」という声も上がりました。

テーマ2 かつてのようにのんびり過ごしたい
地区内に「気軽に寄れる場」をつくろう！

井土地区は、東日本大震災を機に9割の世帯が地区外に移転しました。しかしながら、井土を故郷として慕う人は多く、そのため「イベントがなくとも寄れたらいいのに」という声が多くあります。現状では公園等の施設もなく、井土でゆっくり過ごすことが難しい状況にあります。

- 現状の課題は？
- どんな解決策が
ありそう？
- 自分たちで
できる
ことは？

憩いの場がない
トイレや休憩所がないので、気軽に寄ることができない
交通が不便で、来るのが大変

昔は貞山堀のそばに東屋があった。再建してほしい気持ちはあるけれど、今は貞山堀まで車が入ることが出来なくなっちゃったから、交流の場にするのは難しいそう。

もともと交通の便は悪かった。人の往来が生まれれば、公共交通も充実するかな。そうすると、住んでいる人も暮らしやすくなるよね。

以前は、いろんな行事があるたびに、打上げやったり、集まっていたよね。

子どもが一緒だと、滞在時間が長くなるよね。井土は自然も多いし、親子向けにいろんなことができそう。

公園があるといいよね。環境がいいから、子どもを連れてきたい。

井土は災害危険区域ではないから、宿泊することはできる。それを活かさないだろうか。

グリーン作戦でも花を植えたり、いろいろきれいにしているから、そういう井土の風景をゆっくり眺められたらいいよね。

地元食材でイベントを行う
キャンプ場としての利用を働きかける
風景を眺められる休憩スペースをつくる

芋煮会や BBQ など地元の食材を楽しむイベントを開催するアイデアが出されました。震災前も屋外で食事をともにする機会があったことから、ノウハウはすでにあるようです！

自然が豊かで、災害危険区域ではないことを活かし、沿岸部でのキャンプ場整備を働きかける提案です。他の地区にはない、井土ならではの大きな強みをどんどん活かしていきたいですね。

クリーン作戦によって整えられてきた井土地区でゆっくりできるよう、ベンチや東屋の設置等、メインストリートで休憩できるように整備していこうというアイデアが出されました。

テーマ3 暮らしてみればいいところ！
井土の宅地のニーズを考えよう！

井土地区は災害危険区域の指定から外れたため、井土地区から転居した元住民の皆さんは、ほとんどが元の宅地を所有したまま、別の場所で新しい住まいを構えている状況にあります。そのため、「住宅を再び井土に戻す」ことは現実的ではなく、第三者に宅地を託す手法が求められています。

- 現状の課題は？
- どんな解決策が
ありそう？
- 自分たちで
できる
ことは？

自分たちが住むのは現実的ではない
新しい生活が始まったので、もう戻れない
住んでいないのに税金ばかりかかる

利便性もいいし、宅地としてのニーズを掘り起こしていきたい。

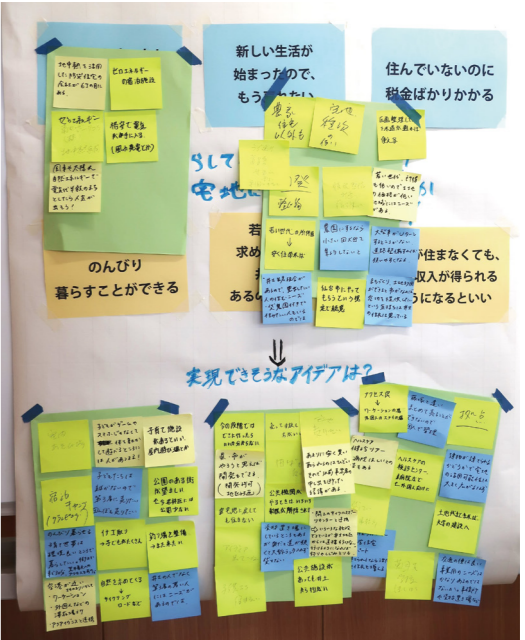
規制緩和については、住民の合意が必要。仙台市にアピールしながら、全員参加で考える必要がある。

若い世代にとっては、自然も豊かだし、手に入るような価格で開発できるとニーズはあると思う。

井土らしい、ゼロエネルギー住宅なんか出来たら、すごく良さそう。

規制緩和のあり方について考える

井土地区は市街化調整区域内にあるため、宅地開発に関するさまざまな規制があるため、住宅用途として第三者が宅地を利用するには数々のハードルがあります。今後「宅地として利用する」ことを具体的に検討するためにも、現状の規制を踏まえ、どのような緩和策を検討できるか、みんなで考えていく必要がありそうです。



テーマ4 井土の売りは「自然」！
自然を活かした井土らしい土地利用を考えよう！

「テーマ3」でもあったように、井土を宅地として再利用することには大きな壁が存在します。それであれば、「別の土地の活用を考えることも必要ではないか」ということから、このテーマが立ち上がりました。現状では、工業者が仮設事務所を構えることがほとんどであり、もっと「井土らしい」活用方法がありそうです。

- 現状の課題は？
- どんな解決策が
ありそう？
- 自分たちで
できる
ことは？

宅地の買い手を探すのは大変
非農家の人や親族以外の人、いつまで貸せるか井土に土地を売ることができない
工業者に分かって不安

「農園カフェ」のような井土でずっと行われていた「手づくりの野菜をおいしくいただく」ことを形にできないだろうか。

農村だからこそできる体験がたくさんある。都市の人から見たら、大きな魅力になるはず。

井土でしかできない自然体験は、ゲームで遊ぶことが主流になってしまった子どもを持つ親世代には嬉しいと思う。

既存の電気に頼らないキャンプ場ができれば面白そう！

住むのが難しくても、滞在型の農園等、通う関係がつけられたらいい。

新規就農者にとっても魅力的な土地活用を進める必要がある。

これからの時代は「エコ」や「脱炭素」は売りになると思う。

井土のありのまま大きな学びにつながると思う。いろんな人に活用してほしい。

「ファームパーク井土」貸農園事業の展開
「エコタウン井土」自然エネルギーの活用
「プレイカントリー井土」自然ツアーの開催

昨年11月に開催した「井土プチマルシェ」では、多くの市民が新鮮な野菜を求めて来場して下さったことから、「井土で育てる」ことも推進できるのではないか、というアイデアです。

自然エネルギーを活用した自家発電施設の設置が提案されました。地区内にはすでにソーラーパネルが設置してあります。今後の活用方法について住民参加型で検討できると楽しそうです。

井土浦、松林、自然光が降り注ぐ広大な土地等、井土の自然を存分に活用した自然ツアーの開催が提案されました。これまで開催してきた自然環境学習会のノウハウも活用できそうです！